

# 新春 2009年 対談

テーマ

## 「古市古墳群、百舌鳥古墳群とともに世界遺産を目指して」

### ●出席者



水野 正好  
財団法人  
大阪府文化財センター理事長



白石 太一郎  
大阪府立  
近つ飛鳥博物館館長



武田 佐知子  
大阪大学副学長



林 義和  
市議会議員



北川 嗣雄  
市長

### 〈市長〉

このたびは、新春対談にご出席いただきましてありがとうございます。さて、昨年9月、我々のまちにある古市古墳群が、さまざまな課題がありますものの、文化庁において世界文化遺産暫定一覧表への記載が妥当と評価されるなど、世界遺産登録に向けていよいよ動き出しました。本市は、まちのどこにいても、周りを見渡すと、巨大な古墳が目に入ってきます。他の土地では味わえないものをもっています。私たちのまち、羽曳野市を見直し、また、この貴重な歴史資産と共存したまちづくりを推進するため、さまざまな観点から、皆さまの貴重なご意見をお伺いしたくて、今回の対談をお願いしました。

折しも、本年1月、本市は市制50周年を迎えます。これを契機として市民の皆様にも、改めて古市古墳群を見つめ直して欲しいと思っています。

### 〈議長〉

羽曳野市には古市古墳群の他にも、数多くの歴史遺産があって、まちの特色になっています。平成4年には、約2万年前の羽曳野市最古の遺

跡、翠鳥園遺跡が発掘されて大きなニュースになりました。私も石器の材料になった二上山のサヌカイトという石で試しに紙を切ってみたところ、鋭い切れ味でびっくりしたことを憶えています。市役所の近くには応神天皇陵古墳、自宅の近くにも雄略天皇陵古墳があり、高鷲駅の北のロータリーには古市大溝をイメージしたイルミネーションが輝いていて、まちの風景になっています。



### 考古学者にとっての古市古墳群

#### 〈水野〉

私は考古学に興味を持ち始めた昭和25年頃、高校2年生でしたが、高校から自転車を走らせて古市古墳群を回りました。眺めても、



古墳そのそのものが見えにくい百舌鳥古墳群の仁徳天皇陵古墳とは違い、間近に古墳や濠を見ることができ、応神天皇陵古墳の、巨大さ迫る力強さには感激しました。陵墓監の方の親切もうれしかったですね。

その後の私の人生は、ずっと古市古墳群とつながり続けています。

### 〈白石〉

古市古墳群の中で、古代の大王の墓、あるいは、その可能性がある大型の古墳として、まずはじめに造られたのは藤井寺市の津堂城山古墳で、今から1600年ほど前、4世紀の後半のことです。5世紀には古墳築造のピークを迎え、応神天皇陵古墳や白鳥陵古墳などが次々に姿を現します。その後の6世紀の前半まで、およそ150年にわたって、巨大な前方後円墳が、ほぼ継続して造られ続けています。

一方、百舌鳥古墳群は5世紀の前半に巨大古墳の築造が始まりますが、5世紀後半には終わっています。

### 〈武田〉

5世紀というと、中国の歴史書に名前が記されている、倭の五王の時代ですね。私の専門は衣服の歴史の研究ですので、『古事記』の中にある、倭の五王の1人、武、すなわち雄略天皇が「従者に紅い紐を付けた青摺の衣服を与え葛城山へ登ったところ、葛城の一言主の大神に出会い、恐れ畏まって、従者が着ていた衣服を脱がせて神に献上した」という不思議な物語に関心をもっています。『古事記』の記事を読むと、雄略天皇の陵墓も古市古墳群の中のだこかにある、ということになりますね。

### 〈議長〉

雄略天皇陵というのは、私が住む島泉、陵南の森総合センターのすぐ北にあります。子どもの頃には、森や池がある陵の周辺は自然の宝庫で、昆虫採取や木登りなどをする格好の遊び場でした。陵の暗い森や、木の上から眺めた通天閣のすがたは今も目に焼き付いています。

### 〈水野〉

雄略の陵墓については、現在、雄略天皇陵とされている以外に、恵我之荘の河内大塚山古墳や藤井寺市の仲哀天皇陵も、可能性がある

とされています。

### 〈市長〉

河内大塚山古墳というのは、羽曳野市と隣の松原市との、ちょうど境界にあり、以前、母に聞いた話では、昔はこの中に村があつて、そこに住民が住んでいたそうです。ところが、昭和2年頃になって、たいへん立派な古墳なので陵墓かもしれない、ということで参考地に指定され、そのため外に移り住んだということです。

### 〈白石〉

5世紀の前半から中頃までは、巨大な前方後円墳は岡山県や群馬県などでも造られています。後半になると、近畿地方以外では、ほとんど造られなくなります。河内大塚山古墳は埴輪を使うことをやめた、6世紀以降に造られた可能性があり、新しすぎます。そうになると、現在の仲哀天皇陵古墳が有力な候補になります。これからも詳しい研究が必要ですね。



### 〈水野〉

江戸時代から今日まで、調査や研究が続けられていますが、どの古墳に何天皇が葬られておられるのかは、学問的に確証することはたいへん難しいことです。いずれにしても、古代の天皇陵や皇后、皇子の陵墓が古市古墳群に数多くあることは間違いありません。

### 〈白石〉

応神天皇陵に対する誉田八幡宮の祀りは、少なくとも平安時代の中ごろまで遡るようです。この古墳が天皇の陵であるという言い伝えが、その頃まで受け継がれていた可能性は大きいと思います。だとすれば、応神陵は疑いがない、ということになります。

### 〈市長〉

誉田八幡宮では毎年9月15日の夜に、ご祭

神を神輿みこしにのせて陵の際までお移しするお渡りの儀式が行われています。たいまつをかかげた幻想的なお祭りで、本当に長い間、守り続けられているのですね。



## 古墳の濠と水鳥

### 〈白石〉

江戸時代には、古墳の濠の水は農業用水として利用されていました。水不足にならないよう少しでも貯水量を多くするため、ときには土を盛って堤のかさ上げをしていることも見受けられます。古墳が造られた当初から、そのような役割があったという説もありますが、農業用水の利用がどこまで時代を遡るのか、ということとはとても難しい問題です。

### 〈議長〉

現在、水は水利組合で管理して利用されることが多く、都市化によって田畑は減少していますが、今も地域との深いつながりが保たれています。最近ではたくさんの水鳥がやってきて、市民の目を楽しませています。

### 〈水野〉

水鳥といえば、応神天皇陵古墳の濠からは、水鳥一オオハクチョウを表した埴輪が10数体も見られていますね。本当に美しい造形です。

### 〈白石〉

『古事記』、『日本書紀』の伝説では、伊勢の能褒野で亡くなったヤマトタケルノミコトは、白鳥にすがたを変えて、大和の琴弾原を経て古市に飛んできたことになっています。最後に白鳥陵が営まれた場所が古市ということは、そこが大王やその一族の故郷であることを暗示しているのかもしれませんが。

## 峯ヶ塚古墳にもヤマトタケルノミコトの白鳥陵の言い伝えがある

### 〈水野〉

峯ヶ塚古墳からは豪華な大刀や装飾品など、目をみはるような品々が発掘されています。古墳の盛土もきわめて固く突き固められていて、30階建ての高層ビルの土台にもなるほどの頑丈さです。まわりの濠も二重で、天皇か、それに近い方の陵墓に違いありません。

### 〈議長〉

私も平成4年に発掘現場を見学しました。九州の阿蘇の石で造った棺があることに驚きました。現在、古墳の周囲は史跡を活かした峰塚公園として昨年、5月にオープンし、市民の方々の憩いの場、散策の場となっています。

### 〈市長〉

峯ヶ塚古墳の周辺には、かつての竹内街道に沿った村々の風情が残されています。古市駅から峰塚公園にかけてのまちづくりの整備にあたっては、このような歴史資産と共存した形で進めることが大切だと考えています。

### 〈武田〉

峯ヶ塚古墳からは冠や垂れ飾りなど、息を呑むほどすばらしい装身具が出ています。『古事記』に出てくるような、豪華な冠をかぶり、すばらしい服装をまとった人物が、天皇に代わって外交の場で活躍する場面がイメージされます。古代には高い身分の象徴であったすばらしいアクセサリーが、巨大とは言えない峯ヶ塚古墳から出ているのだから、もっと大きな古墳にはどんなものが埋まっていたのか、想像もつきません。



### 〈白石〉

峯ヶ塚古墳が造られたのは、朝鮮半島からどんどん新しい文化を受け入れている、舶来品全盛の時代ですが、大刀の造りなどは日本の伝統的なものを大切にしているようです。



〈市長〉

大陸との結びつきというと、古市の安閑天皇陵古墳から江戸時代に掘り出されたというガラスの碗が、東京国立博物館に展示されています。そのガラスの碗とそっくりなのが、奈良の正倉院にも伝わっているというので、昨年、秋の正倉院展で見てきました。1,500年も前のものが残っていることが素晴らしいですね。

〈水野〉

そのとおりです。この二つの碗は同時期に日本に到来し、一つは正倉院で天皇家の宝物として長く伝えられ、一つは日本に来てすぐに安閑天皇陵に納められたもの、その両者が今日そろって見られるのは、本当に奇遇ですね。



〈白石〉

日本の古墳からガラスの器が出てくるのは本当に珍しく、まだ3か所しか見つかっていません。アジア大陸、しかも7,000kmも離れた古代ペルシャ、現在の中東地域で作られ、はるばる羽曳野まで運ばれたものです。安閑天皇陵古墳というのは、葬られた人に疑いが無い数少ない古墳の一つと考えられていますので、安閑天皇陵古墳から出たことが確かだとすると、このガラス碗は安閑天皇の持ち物であった可能性が大きい、ということになります。

〈議長〉

そんな古い時代に、どのようにして羽曳野まで伝わったのですか。

〈水野〉

たぶん、朝鮮半島の百濟、新羅の国から献上されたんでしょうね。

海の玄関、難波と大和の都をつなぐ道

〈水野〉

松原市の北部では、側溝をそなえた幅18m

もある古代の難波大道の跡が発掘されています。まっすぐ北に延長すると四天王寺の東の「大道」を通って、難波の宮の朱雀門、大極殿につながります。同じように和泉と大和をつなぐ東西の大道、大津道、丹比道がここ羽曳野を通っています。羽曳野は古代大道ネットワークの中心です。

〈武田〉

ものや情報というのは、道を通じて運ばれます。古代の日本では道を中心にして、村々や国々が連なっています。朝鮮半島や中国、さらにはペルシャからのものや情報が、難波からの道を経て運ばれ、その結果として、ここ羽曳野も繁栄していたのでしょね。

〈市長〉

今も古来の道は生きていますし、南阪奈道路や大阪外環状線、堺羽曳野線にも受け継がれています。これからのまちづくりにおいても、きつと活かされていくでしょう。

古市古墳群の世界遺産登録に向けた取り組み

〈白石〉

古市古墳群は世界遺産の候補のトップと言っても過言ではありません。現在、世界遺産になっていない方がおかしい、とさえ思います。大阪の都市圏にあって周囲の市街化が進んでいるものの、文化財としての価値が失われた訳ではなく、現状でも世界遺産に登録する価値は十分にあります。今後、古墳周囲のバッファゾーン(緩衝地帯)を、どのような考え方で、どのように設定してい



くかなど、解決しなければならない大きな課題もありますが、現状も勘案しながら、国の内外からたくさんの方が来られる場所としてふさわしい環境整備の方向性を明確にした上で、保全と活用の方策を考えていく必要があります。

#### 〈武田〉

私は大阪大学で社会と大学との連携を図る仕事を担当しています。すでに堺市とは地域連携協定を結んで、百舌鳥古墳群の世界遺産登録について微力ながらお力ぞえしようとしています。関西には京都、比叡山、奈良、熊野、姫路城など、いくつかの世界遺産がありますが、大阪にはありません。早く、百舌鳥・古市古墳群が世界遺産になることを願うとともに、これらと連携した大学の役割も考えていきたいと思ひます。

#### 〈水野〉

世界遺産は日本人のためにだけあるのではありません。人類の英知を示す古市古墳群を世界の人たちに理解してもらうには、英語や韓国語、中国語、フランス語など、さまざまな言語による説明も必要でしょう。寺内町がある富田林市、聖徳太子の墓所がある太子町などとも手を結んで、関西空港からつながる観光コースも考えられます。多くの人々に訪れていただくのにふさわしい、きれいなまちをつくることは、市民の方々にとっての住みよいまちづくりにつながります。

#### 〈武田〉

羽曳野市では、ずっと守り伝えられてきた古墳が生活の中にあります。市民の生活と両立し

てこそ、世界遺産の価値があると言えます。緑豊かな古墳が点在するきれいな街並みを、次代に伝えて欲しいですね。

#### 〈議長〉

私も古市古墳群は子どもの頃からずっと、生活の一部になっています。世界遺産をめざすことは羽曳野市だけでできることではありません。大阪府や国の関係機関、近隣の市町村との連携が大切です。市民の方々に、羽曳野市はすばらしい日本の歴史を物語る巨大古墳があるまち、また、これらの歴史資産を誇れるまちである、という意識を広げていく活動が大切です。



#### 〈市長〉

これからも世界遺産登録に向けて、大阪府や堺市、藤井寺市と共同で取り組んでいきたいと思ひます。市民の皆様の意識には、世界遺産にぜひ登録すべきであるという思ひもありますが、生活の中に溶け込んでいる古墳と共存して生活できたら良いという、ごく自然な受け止め方をする思ひもあります。このため、今後のまちづくりにあたっては、古墳を含めた現存する歴史資産と共存した魅力あるまちづくりを行ってまいりたいと考えていますので、皆様方におかれましてもご支援ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。本日は大変貴重なご意見、どうもありがとうございました。

